

健康へのメッセージ

胃内視鏡の移り変わり

胃カメラを飲むということが理解できなかった時代から、以前(平成17年11月号)に述べたカプセル内視鏡までは大きな変化です。特に日本人の研究の成果が大きい分野です。

昨年の住民検診で胃の検査で異常のあった方には、胃内視鏡検査の指示がされている

はずです。検診以外でも腹痛などの自覚症状がある場合には胃内視鏡検査が必要となります。胃・十二指腸潰瘍、ポリープ、慢性胃炎、逆流性食道炎などが診断されます。悪性の疑われた場合には組織検査が行われます。このように現在では簡単に胃の中の検査が可能ですが、内視鏡については長い開発の歴史があります。

人体の中を直接観察することは診断学のうえで最も有用です。最初に胃の中を観察したのは1868年にドイツの



東陽病院院長
伊藤 文憲

クスマウル博士です。まっすぐの管を挿入して観察しましたが、剣呑み師の曲芸のような状態であり、苦しいものです。1932年にシンドラー博士らが複数のレンズを用いて屈曲の可能な軟性胃鏡を開発しています。

内部を直接観察する方法から、胃管の先に小型のカメラを装着して撮影し、現像した写真で診断する方法が考案されました。1898年ドイツで報告されましたが、1950年に東大の宇治博士により改良が行われて徐々に普及しています。今の内視鏡よりも細くて飲みやすく、綺麗な写真が得られます。胃の集団検診に有効でした。

直接胃内の観察は、細いガラス繊維を束ねると屈曲した場合でも光が送られるというファイバースコープの原理を利用して、1960年にアメリカのハーショヴィッツ博士により胃・十二指腸内視鏡として製品化されました。器具の改良が進み、内視鏡の観察下に別の孔を通して組織検査も行われるようになり、診断能

が格段に向上しました。日本において改善はめざましく操作性の向上、解像度や耐久性も進歩し、世界に輸出されています。20年前にドイツの病院の内視鏡室で日本製品を見たときは感動でした。

1983年になり内視鏡の先端に超小型テレビカメラを組み込んだ電子内視鏡がアメリカで開発されました。胃の内部はテレビモニターに映し出され、同時に何人でも観察ができます。画像の編集も可能であり、拡大内視鏡などによる新たな内視鏡所見の研究がおこなわれています。各種の治療器具の開発により明るい部屋で多勢のスタッフの元で検査や治療が可能となりました。

それでもまだ飲めない人に対して、最近では従来の半分に近い細径の経鼻内視鏡が開発されています。当院でも近々導入の予定です。ご期待下さい。

◆救急当番日

1日(日)・29日(日)
午前8時30分～
午後5時15分

◆問い合わせ

☎1335

手作りの料理を食卓に!

☆ブロッコリーとチーズのナッツサラダ☆

材料：(4人分)

切れてるチーズ	4枚
ブロッコリー	小1株
エリンギ	2本
ミックスナッツ	40g
プレーンヨーグルト	大さじ1
味噌	小さじ1
④ マヨネーズ	大さじ2
塩	少々
こしょう	少々

エネルギー 154kcal

《作り方》

- ①ブロッコリーは小房に分け、エリンギは食べやすく切っておく。
 - ②切れてるチーズは1cm幅の短冊に切る。
 - ③ミックスナッツはあらかじめ刻んでおく。
 - ④塩を加えた熱湯にブロッコリーを入れ2分ゆで、エリンギを加えてさっとゆでる。
 - ⑤④の材料をよく混ぜ合わせ、チーズと野菜を加え、ナッツも合わせてざっくり混ぜる。
- 火を通しザルにとって水を切り早く冷ます。
- ナッツの香ばしさとヨーグルトの隠し味でまろやかなサラダをおためし下さい。
- 食生活改善推進員
子安 紀子(於幾)